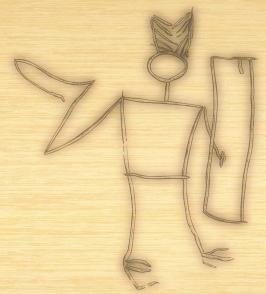
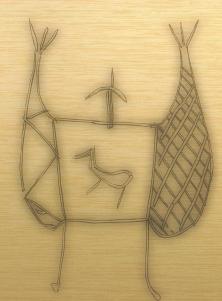
弥生の絵画

Incised Drawings on Pottery in Yayoi Priod ~唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画~
Karako-kagi Shimizukaze









田原本町教育委員会

1.マツリの場に供えられた絵画土器

弥生時代には、土器に建物や人物など様々な絵が「ヘラ」で描かれました。絵画が描かれる土器の多くは壺で、 おそらく、お酒が入れられていたのでしょう。このような土器はマツリの場に供えられる特別な土器だったと考えられます。



矢は鹿の背中から突き刺さり、斜格文を充填した体



2.魚と築? 左側の魚には、重複するように下絵の魚が消されずに残ってい 内に達しています。木の葉状の線まで表現されています。 ます。また、魚の下側には無状の表現をもつ築?が描かれています。



3.盾と戈をもつ鳥装のシャーマン 右手に戈、左手には盾をもち、 けた人が描かれています。



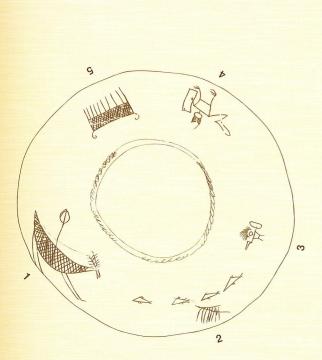
頭には放射状の被り物を付



左側人物と同様に盾と戈を持つ人物ですが、頭の被り物は矢 羽状で、右向きに大きく描かれています。

5.大型建物

切妻屋根で渦巻き状の棟飾りをもつ、柱間9間の大型建 物でしょう。



6.全体の構図がわかる絵画土器 (清水風遺跡第2次)

「酒壷」と考えられる複合口縁壷に並列的に1~5の 絵画が描かれています。1~3と4・5の絵画の間には空 白があり、2つの場面構成が考えられます。



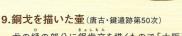
7.再現された盾と戈をもつ鳥装のシャーマン模型 (唐古・鍵考古学ミュージアム)

絵画土器や各地の遺跡出土品を参考に復元。

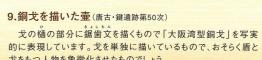


8.銅鐸形土製品に描かれた 武器をもつ人物(唐古・鍵遺跡第44次)

銅鐸を模したミニチュアの土製品の鐸身 に武器?をもつ人物が斜めに描かれています。



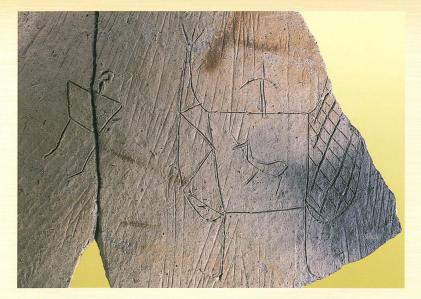
戈をもつ人物を象徴化させたものでしょう。



2. マツリの内容を読み解く鍵は?

絵画は、単独で描かれることもありますが、複数の画題で構成されるものもあります。大半の絵画土器は、割れて出 土しているため全体がわかるものは少ないのですが、唐古・鍵遺跡や清水風遺跡では複数の絵画で構成された良好 なものがあり、マツリの内容を読み解く鍵になっています。





11.両手を挙げる鳥装のシャーマン(清水風遺跡第1次/奈良県立橿原考古学研究所)



12.再現された両手を挙げる 鳥装のシャーマン模型 (唐古・鍵考古学ミュージアム)



14.両手を挙げる人物 (唐古·鍵遺跡採集品/ 天理大学附属天理参考館)



15.両手を挙げる人物 (唐古・鍵遺跡第91次)



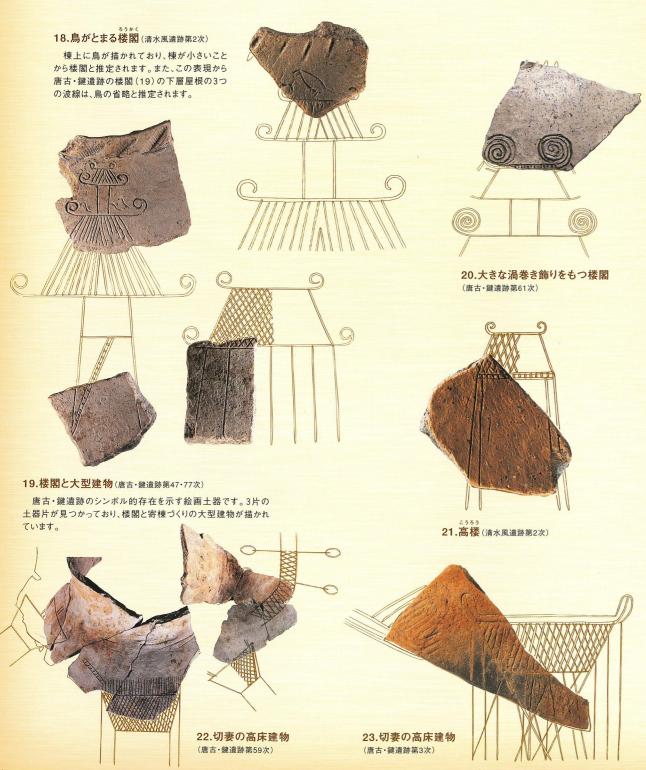
16.建物と人物(清水風遺跡第2次)



17. 高床建物に昇る2人の人物(唐古・鍵遺跡第1次/京都大学総合博物館)

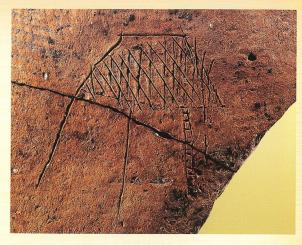
3. 唐古・鍵遺跡の絵画土器点数は全国一

弥生時代の絵画土器は、全国で600点以上出土していると思われますが、中でも唐古・鍵遺跡では350点以上、 清水風遺跡では50点ほどの絵画土器が出土しています。この2つの遺跡から出土した絵画土器は、全国の弥生遺跡 のなかで突出しています。2000年前の唐古・鍵や清水風のムラでは、盛んにマツリがおこなわれていたのでしょう。





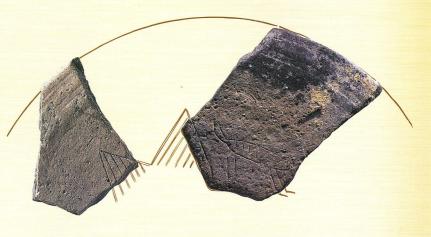
24. 寄棟の高床建物 (唐古・鍵遺跡第33次)



25. 寄棟の高床建物 (唐古・鍵遺跡第76次)



26.切妻の高床建物と鹿 (唐古・鍵遺跡第73次)



壷蓋の内面に描かれたもので、本来は見えない絵画です。26のように建物と鹿を並列的に描く パターンが多くあることから、ここに描かれた鋸歯文は建物が置き換わったものと考えられます。



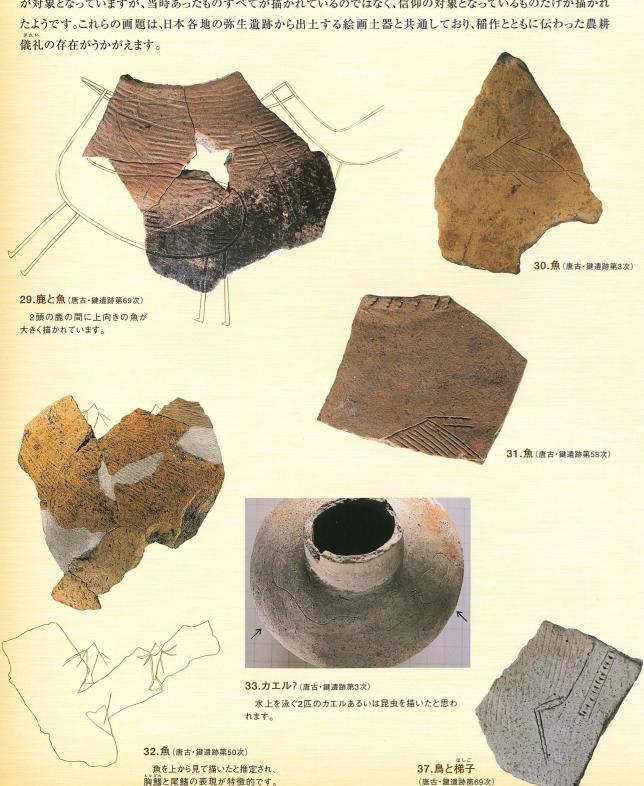


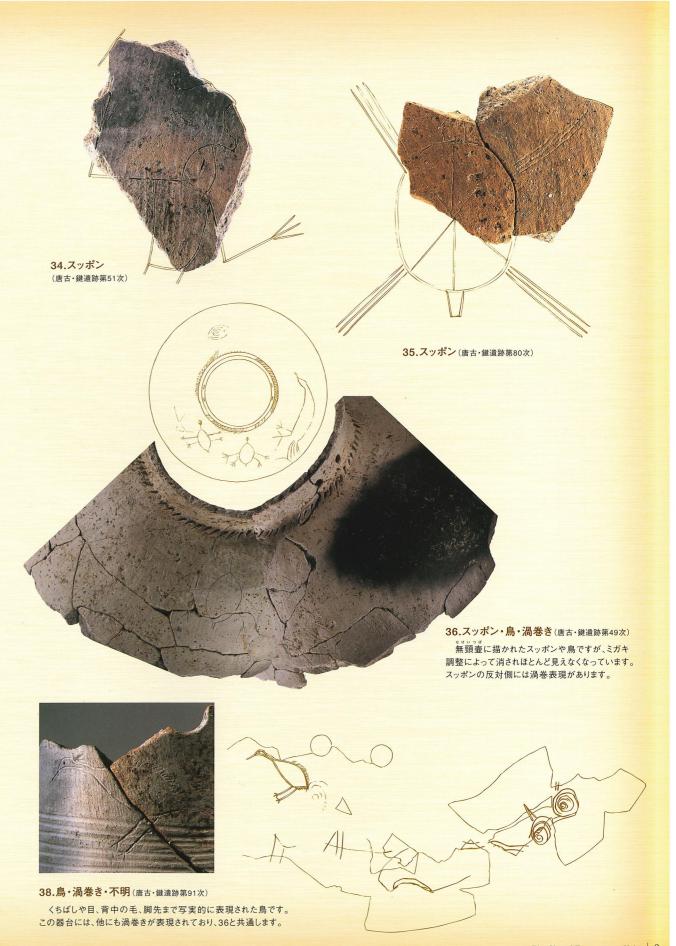
雄鹿と2段の鋸歯文が描かれており、この鋸歯文も 建物が置換されたと考えられます。

27.鋸歯文と鹿(唐古・鍵遺跡第63次)

4. 描かれた画題は弥生人が信仰していたもの

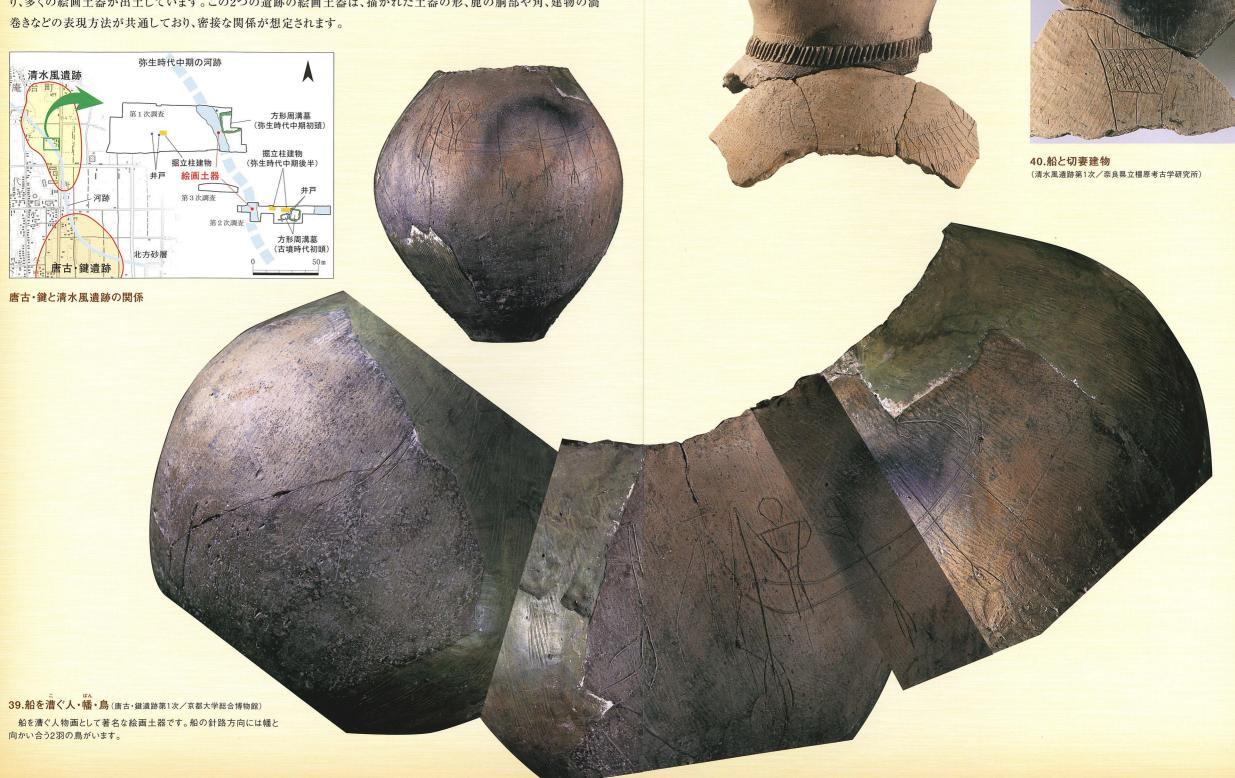
絵画土器の画題には、建物・船・人物・鹿・鳥・スッポン・魚・カエルなどがあります。これらは弥生時代にあったものや動物 が対象となっていますが、当時あったものすべてが描かれているのではなく、信仰の対象となっているものだけが描かれ





5. 共通する唐古・鍵と清水風遺跡の絵画

唐古·鍵遺跡の分村と考えられる清水風遺跡は、唐古·鍵遺跡の北北西600mに位置します。この遺跡の発掘調査 では、河跡から多量の絵画土器が出土しました。一方、この上流にあたる唐古・鍵遺跡でも「北方砂層」(河跡)があ り、多くの絵画土器が出土しています。この2つの遺跡の絵画土器は、描かれた土器の形、鹿の胴部や角、建物の渦



6. 絵画土器がたくさん作られたのは二千年前

弥生土器の絵画は、弥生時代前期末頃から出現しますが、大半は中期後半(約二千年前)のものです。この時期 の絵画は、シンプルな線刻で対象となった建物や動物の特徴を的確に表現しており、線刻画としては完成されたもので しょう。



41.群れをなす鹿(唐古・鍵遺跡第50次) 唐古・鍵遺跡の絵画の中では、最も古いものです。



43.脚先表現のある鹿(唐古・鍵遺跡採集品) 脚先が二股に分かれた表現は、偶蹄類の鹿を よく観察しています。



45.尻尾表現のある鹿 (清水風遺跡第1次/奈良県立橿原考古学研究所)

左側の鹿のお尻には、小さな四角形の表現があり、 尻尾を表現しているようです。2頭の鹿の後ろには横線 が8本描かれ、逃げようとしている鹿に矢が飛んできて いるようです。

47.器台に描かれた鹿

半月形の胴部をもつ鹿は、唐 古・鍵遺跡では数少ない鹿の表 現です。46のような鹿表現より 古い表現と考えられます。

(唐古・鍵遺跡第23次)



46.鹿 (唐古·鍵遺跡第61次)

唐古・鍵遺跡で描かれる鹿の表現としては最もポピュラー なものです。



^{ちせつ} 48.稚拙な表現の鹿(唐古・鍵遺跡第76次)

絵画の表現力は、弥生時代後期になると退化し、48~51 の鹿にみるように角の表現からかろうじてわかる程度です。



49.器台に描かれた鹿





51.長頸壷に描かれた鹿 (唐古・鍵遺跡第91次)

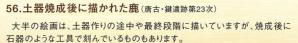
鹿の絵画は抽象化が進み、 記号風になっています。

7. 下絵・描き直し・後刻・消された絵画

絵画土器のなかには、下絵のあるものや下絵と全く別の絵が描かれたもの、絵画の線刻が大変細く第三者には見え づらいもの、また、土器製作途中に描かれ、絵画の一部が消えてしまったもの、焼成後に描かれたもの(後刻)がありま す。このように絵画を描く行為はたいへん複雑です。絵画を通して弥生時代の人のメッセージを受け取ることは、簡単 ではありません。



53.見えない絵画(清水風遺跡第2次) 非常に細い工具で描かれた絵画で、 ほとんど見えません。魚(b)や建物(c)、 鹿(d)が描かれています。

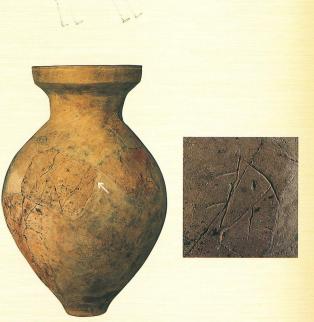


54.描き直された絵画 (唐古・鍵遺跡第93次)

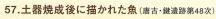
55.描き直された絵画 (唐古・鍵遺跡第63次)

鹿と2羽の鳥が重なるように描かれています。この鹿の左側には、はじめ 盾と戈をもつ人物やその他の絵画が描かれていたようですが消されていま す。ただし、丁寧には消さず、また違う絵を描いていることから、絵画を第三 者に見ようとしているのではなく、描くことが重要だったことがわかります。

鹿の角部分が深く鋭い線刻として残っていますが、その両側には船首に立 ち両手を拡げた人物(a)と建物(b)の線刻が細くわずかに残っています。







壷胴部中央に上向きの魚が刻まれています。

8. 絵画から記号・文様へ

弥生時代後期になると、絵画の表現法は稚拙・退化し、何を描いているのかわからないものが多くなります。また、その一方で絵画の一部が象徴化され、記号や特殊な文様に変化するものがみられます。弥生時代後期には、絵画土器の役割は、記号土器や特殊な土器へと変化していったのでしょう。



60. 龍から変形した文様 (唐古・鍵遺跡第14次)



62. 文様となった龍(唐古・鍵遺跡第74次)



59. 龍から変形した記号(唐古・鍵遺跡第33次)



61. 龍から変形した文様 (唐古・鍵遺跡第91次)

- ◎協力機関(原品所蔵者) 京都大学総合博物館(17·39·42·52) 奈良県立橿原考古学研究所(11·40·45) 天理大学附属天理参考館(13·14)
- ◎写真撮影亀村俊二·佐藤右文
- ●上記機関所蔵品以外は、田原本町教育委員会所蔵

田原本の遺跡4 弥生の絵画 ~ 唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画~